「村の宝発見できた」

青公大「鮟鱇チーム」活動報告

秋にラーメン提供模索

風間浦

2月に行われた特許庁など主催の「全国地域ブランド総選挙」決勝戦で東北代表として風間浦村の「風間浦鮟鱇（あんこう）」を活用したビジネスプランを提案し審査員特別賞を受賞した青森公立大生らのチームが3月24日、同村総合福祉センター「げんきかん」で活動を報告した。冨岡宏村長や商工・観光関係者らが学生とアンコウの活用策などについて意見を交わした。

決勝戦で学生は、アンコウが「高級品で手を出しにくい」「認知度が低い」「漁業者の所得・後継者不足」などの課題があることを挙げ、子どもから大人まで楽しめる「風間浦鮟鱇ラーメン総選挙」の開催で幅広い層に浸透を図ることを提案した。

参加した村民たちからは「旅館で食べたアンコウ料理の中で、何が一番おいしかった？」「ラーメン総選挙の実現可能性は」「ビジネスプランを決める際に、他に出た案は」など質問が出た。

鮟鱇チームの一人で同大地域みらい学科2年の乙供怜さん(20)は、現地取材などでこれまで2度、村を訪れたといい「村の人たちは風間浦の海を『宝の海』と言って誇りを持ち、仕事をしていた。熱い思いを持つ人たちが、協力してくれた。活動を通して村の魅力を発見できたことが収穫」と話した。

香取薫学長は総括で、今秋に青森市を会場に企画している同大主催のイベント「青森まるっとよいどころ祭り」で鮟鱇ラーメンの提供を模索していることを明かした。（鳥谷部知子）

風間浦鮟鱇を全国にＰＲした成果を村長らに報告した青森公立大の学生たち（奥）